

浜田市議会議長 原田義則様

議員名 西田清久



調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期間 平成27年5月11日(月)～5月12日(火)

2. 視察先と内容

- ① 安芸高田市 川根振興協議会の取組みについて
「行政に頼らないコミュニティづくり」
講師 辻駒健二会長
- ② 門前湯治村 神楽ドーム視察
(安芸高田市) 説明 山根孝浩安芸高田市政策企画課まちづくり支援係長
- ③ 邑南町 誰もが幸せになれるまち—攻めと守りの定住プロジェクト
「A級グルメ構想と日本一の子育て村構想について」
講師 石橋良治邑南町長
田村哲邑南町定住促進課課長補佐
口羽正彦商工観光課課長補佐

3. 参加者 原田義則 澁谷幹雄 牛尾博美 道下文男 飛野弘二
上野 茂 野藤 薫 串崎利行 西田清久

4. 調査経費 12,753 円

5. 調査研究活動の概要 別紙



安芸高田市

川根振興協議会の取組みについて

- 1972年の江の川の氾濫→自分たちがどう生きるか？
どう変わるか？
- 2198人が500人に→危機感による住民自治意識の芽生え
- 農業が基幹産業—農地を守る
- 道路整備の遅れ→同じように税金を納めているのに、何故自分たちに帰ってこないのか？ ……自分たちが選んだ市長や議員のせい？
- 小学校の統合→学校がなくなると、地域の夢を語れなくなる
- 1982年、「農地を守る会」の立ち上げ→土地改良へ—80haを5年で
⇨今から、負担金を出してまで土地に金をかけて何になる
⇨わしのところから、先にやってくれ
→補助金の1800万円は個人に配らず、法人の運営資金に—独裁者と言われた
→個人のエゴに任せたら、何にもできない
- 地域のご縁のおかげ
- 親の世話のために、38年前に戻ってきた
- 行政のやれることには、限度がある→行政がやることと、地域がやることの仕分け
- 道路改良—各自が1m50cm提供
- 草刈、道路管理は自分たちがする
- 学校を、4億円かけて改修→「川根ミュージアム」
- 地域住民の声を行政がいかに取り入れるか
→要求から提案のまちづくりへ
- 若者定住の住宅建設へ→23戸建設
- 学校を無くさないという決意が必要
- 支所に権限と予算がないので、
合併したことの難しさがある
- 就労の若者農業者→野菜果物栽培の本には、
草が生えることが書いてない！
- ガソリンスタンドとストアの撤退→一戸千円(260戸)集めて再開
- 各戸毎に、「一日一円募金」実施—給食サービス
→予想以上に資金が集まる
- 「もやい便」—どこからでも片道500円
- 毎朝カーテンを開ける—元気なサイン→地域の人たちが顔を覗かせる
- 香典返し→振興会へ・宴会部長が必要
- 住民自治意識は高齢者の方が高い→みんなでお金を出す



川根ミュージアムのホールで、
辻駒会長から、説明を受ける

所感

川根振興協議会の辻駒会長の地域に対する熱い想いと行動力とアイデアに感心させられる。地域住民が、“自分たちの地域が良くなるために、自分たちで何が出来るか”を話し合える環境づくりこそが重要だと感じた。ポジティブにネガティブ、積極的に消極的、前向きに後ろ向き、浜田市の将来にとって、アクティビティーなリーダーと意識のある人材が、小さい単位の地域

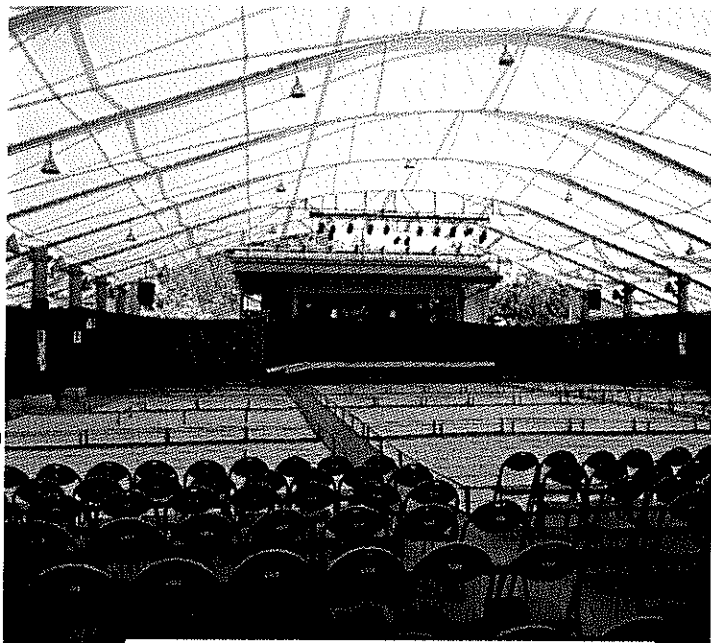
に一人でも多く存在するための人材育成と人材誘致が、今後の最重要課題の一つだと思う。

門前湯治村視察(安芸高田市)

- 門前湯治村総事業費40億円
- 神楽ドーム建設費8億円
- 委託費一年間4000万円
- 金土日年間150日神楽上演
- チケット収入→社中と管理会社とで折半
- 入場者一日平均500人

所感

神楽と温泉を融合したテーマパークであるが、指定管理委託費が年間4000万円であり、運営には相当苦勞されている。浜田には、山陰なりの石見神楽の活かし方があるように思った。安芸と石見の神楽交流がさらに進むことを願う。



テント張りの神楽ドーム
前側畳敷き—2畳の畳敷席に変化
後列椅子席



門前湯治村の敷地内で、説明を聞く



門前湯治村入り口で記念撮影

(カメラマン渋谷)

邑南町

誰もが幸せになれるまちー攻めと守りの定住プロジェクト
「A級グルメ構想と日本一の子育て村構想について」



- 邑南町の人口ー11500人、面積ー420平方キロ、世帯数ー5000世帯、高齢化率ー41.9%、島根県中央部で盆地の多い地形
- 一般会計の予算規模130億円ー交付税50%以上、教育費11億円ー毎年増やしている
- まちづくりの基本理念→住民が主役ーまちづくり基本条例の制定
 周辺を大切にー216集落、39自治会、自治会担当職員配置
- 自立を促す→公民館設置・職員3人体制(正規職員1名)ー地域に出かけて行く
- 合併後の一体感→ケーブルテレビの活用ー加入率96%
- 若手職員による地域のカルテづくりー地域の課題と人口分析
- 出羽地域の取組み→「出羽夢づくりプラン」策定ー「日々の生活は足りているが、足りないのは希望」との声を受けて→課題の解決と夢の実現に向けてー「LLC出羽」法人設立
 地域通貨と人材バンク(農地保全・除雪作業・空き家対策)
- 町民の生活満足度調査ー84%が満足(全国平均64%)子育て支援充実・学校教育充実・高齢者障害者福祉充実・下水道普及率91%・食べ物おいしい85%
- 人口減少の右肩下がりを緩やかにする←900自治体2045年には消える
 2015年の推計値11,031人⇔現実、11,487人
- 邑南町の人口動態ー社会動態H25年+20人、H26年+13人 (浜田マイナス326人)
- 攻めのA級グルメ構想と守りの日本一の子育て村、徹底した移住者ケア
- 町民に誇りを持ってもらうことが大事
- 今いる人も大切に「誰もが主役」・・・日本一の子育て村構想へ
 0～18歳人口の増加と定住→H33年の目標1800人(100人増)
 邑南町は、過疎債をソフト事業に充当できるように陳情
 →特別枠分1億8千2百万円全額消化する必要がある

→過疎ソフトで思い切った戦略を一関係課召集

→保育料の無料化と「日本一の母子保健事業」－中学生までの医療費無料

- 身近で安心な医療体制の構築→公立邑智病院一医師10人体制、24時間緊急受付
産婦人科、小児科機能の充実、専門医の常勤、ドクターヘリ
- 待機児童ゼロ、9ヶ所の保育所は統合しない
→園児4人でも、園長、保育士、調理師の体制維持
- 過疎債を使って、一般財源の支出を振替え
- 日本一子育て村基金→10年後にツケをまわさないために積み立てを行う
- 日本一の子育てむらを目指すにあたり、町民が一丸となって子育てに対する取り組みを進めて
行くことが大事→地域で子育て未来を創る→みんなが笑顔で暮らせるまち
行政無線で赤ちゃんの誕生をみんなに知らせる
- 地域おこし協力隊31人→耕すシェフ、アグリ女子隊、地域クリエイター、アクサホ隊
- 数値目標設置－一定住人口200人確保→213人、観光入込客数100万人→92万人、食と
農の5名の起業家→27人に
- 食の学校－調理学校との連携
- 保育料2子目から無料、保育所完全給食、病児保育、延長保育
- 公民館の充実・地域学校・奨学金制度・笑顔キラキラ事業
- 定住支援コーディネーター(職員男女2名)→Uターン者ケア
- 「都市から地方へ」を継続・強化する－農林業の活性化が重要
- A級の町をめざして→新たな就業スタイルの創造
- 今後の課題
町内に食と農を中心とした起業支援センターを設立
民間企業との協働によるさらなる邑南町のブランドカアップ
一流の人材の育成→世のため、人のために役立つ人材の育成
新たな就業スタイルの創造
- 100年先でも持続可能な町へ→理想郷に向けて
- 町全体が一つの家族としてサポート

所感

邑南町石橋町長から合併後のまちづくりのコンセプトや考え方を直接伺うことが出来、非常に心に通じるものがあった。合併後、町全体の意識調査により、“食”という共通キーワードを見出し、現在の「A級グルメ構想」につながっている。また、地域おこし協力隊など国の事業や県のふるさと島根定住財団との連携などから、Uターン者を含め、多くの人材の導入に力を入れている。特に、若い人材に対して手厚い町のサポートなどにより、定住・起業・雇用創出など多方面に活性化が連鎖しているように感じた。まさに地域の実情にあわせて、地に足のついたまちづくりの実践だと思う。